

## 第8回美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施について

博物館・美術館に展示される貴重な美術品・文化財等の取扱いや、その梱包輸送には、特定の知識・技能が必要だが、ベテラン作業員や古参の学芸員が相次いで定年退職する中で、後継者養成に困難が生じている。他方、国公立の博物館・美術館では、競争入札で、経験のない梱包・輸送会社が落札し、美術品等が毀損されるような事態が懸念される。そこで、後継者に技能継承のインセンティブを与え、より多くの梱包・輸送業者の技術水準の向上を図るとともに、技術が未熟な運送会社への落札を抑止するための方策として設けられたのがこの認定試験である。

日本博物館協会では、平成24(2012)年から、この認定試験を実施しており、この度30年度、8回目の認定試験を実施したので、報告する。

### 1級の認定試験

今年度も1級試験は、夏枯れの期間である8月4日土曜日に実施した。

1級は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、取扱いの難しい作品の梱包設計が行える水準を想定しており、経験年数10年以上と2級の保有を受験資格にしている。試験は筆記試験と口頭試問で、全て黒田記念館で実施した。

受験希望者は11名で、1名に辞退をお願いして、10名で試験を実施した。

筆記試験は、東京国立博物館東洋館に展示されているエジプトテーベ出土のサメクト女神埼像を京都国立博物館に輸送し、展示会後返却するに際し、その下見において、留意するべき点と、留意するべき理由を記述する問題が出題された。試験時間は90分、60%が合格の基準である。合格者は7人だった。

午後の口頭試問では、これも東京国立博物館所蔵の平安時代の不動明王立像(像高166.1cm 光背高236.4cm)をモナコのクリマルディ展示館に輸送する際の諸問題や、トラブル時の対応について、面接官からの質問に答えてもらった。1人30分間で、梱包設計の詳細について問うとともに、技術集団を統括し、きちんと説明することができる人物であるかどうかを審査した。合格者は6人だった。

両方に合格して1級を取得したのは10人中4人と、昨年度の2人を上回る事ができた。

### 2級の認定試験

2級の認定試験は、平成31年2月16日土曜日と17日日曜日、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。この試験は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準を想定しており、経験年数5年以上で、3級を保有していること

を受験資格にしている。筆記試験、実技試験、面接があり、実技試験は梱包の基礎である陶磁器と、特有の基礎知識を必要とする茶道具を課している。

面接試験に合格して他の試験で落ちて、再受験する者については、面接試験を免除している。昨年度は面接免除者を2日目に固めて、試験のオペレーションに時間的余裕が作れないか試してみた。しかし、面接免除の受験者数が想定した枠よりずっと少なかったため、今年度は面接免除か否かを問わず、1日目、2日目ともそれぞれ30人の定員で募集した。応募総数は55人で、このうち面接免除の再受験者は8人だった。このため、ほぼ受験者の希望通り、1日目に30人、2日目に25人に受験してもらうことができた。

2級の認定試験は、東京国立博物館平成館での実技試験から始まる。実技試験の際のチェックポイントは、昨年11月から、受験者の研鑽に資するため、博物館協会のホームページで公表している。しかし合否の判定は、このリストにある項目の得点や減点によるのではなく、審査員の目を見て、「この受験者に作品を任せられるかどうか」を基準にしている。

茶道具の実技は、箱に収まっている茶碗を取り出し、コンディションをチェックして、内梱包して箱に戻す作業を求めたが、3人が不合格になった。陶磁器の実技は、綿布団を作成して、内梱包を行うことを求め、8人が不合格だった。

午後に実施する筆記試験は、博物館協会の編集で出版している「博物館資料取扱いガイドブック」から出題する。博物館資料の取扱いや梱包・輸送、保存について多肢選択式で回答を求め、該当する選択肢がなく、「なし」と答える「ゼロ回答」の問題も含まれる。回答時間は前回から、それまでより10分短縮した50分で、32問。65%の正解が合格の基準である。今回も、黒田記念館で実施したが、7名の不合格者が出た。

筆記試験の後に、同じ会場で講習を実施した。内容は、主として午前中に行った実技試験の振り返りを行った。

講習の後の面接試験も、全て黒田記念館で実施した。コミュニケーション能力と指導能力の確認を主目的として実施してきたが、ある質問に対して、認める訳に行かない回答があり、確認しても改められなかったため、面接では初めての不合格者を2名出さざるを得なかった。

所要の試験全てに合格し、2級の認定試験に合格した者は、受験者55名中39名、合格率は71%で昨年の74%を下回った。

### 3級の認定試験

2級試験と併行して、2月17日土曜日と18日日曜日に、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。

3級は、需要が多く比較的取扱いの容易な陶器、額装作品、掛物などを所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができる水準を想定し、2年以上の経験を要求している。筆記試験と複数の実技試験を受け、全ての試験に合格することが3級認定試験合格の条件となっている。

定員 90 人に対し、受験希望者数は 104 人で、今回も人数の調整をお願いした。この場を借りて、ご理解ご協力に感謝申し上げる。なお、3 級では、筆記試験に合格して実技試験で不合格だった受験者が再受験する場合、筆記試験を免除しているが、今回の筆記試験免除者は 13 人で、本人の希望の方の日に受験いただいた。当日の欠席は全部で 2 人だった。

午前中に実施する筆記試験と講習は、今回も黒田記念館で実施した。筆記試験の第 1 問は、自習用ガイドブックの第 1 章「美術品の取扱いの基礎知識」の 1 部を示し、空欄に入る語を選択する問題。第 2 問は、掛物、卷子等の矢印で示す部分の名称を、選択肢の中から記号で答えるとともに、読み仮名を記す問題を出題した。今回も 70% の正答を筆記試験合格の基準にした。受験者 75 名中、不合格者は 2 名にとどまった。

筆記試験に次いで同じ会場で講習を行い、実技試験で実施する額装作品、陶磁器、掛物の模範的な梱包作業をビデオで示し、解説した。このビデオは、昨年 11 月から博物館協会のホームページで公開しているので、自学自習の参考にご覧いただきたい。

午後に実施する実技試験は、全て東京国立博物館の平成館で実施し、各受験者に 2 種目の受験を求めた。額装作品については全受験者が 15 人ずつに別れて受験した。掛物と陶磁器は、予め振り分けられた班により、いずれかを受験した。額装の実技試験では、6 号の額装絵画を、国内輸送用に段ボール箱を作成して梱包する。陶磁器では、与えられた綿布団を使用して内梱包を行う。掛物では、箱から出して壁に掛け、降ろし、内梱包することを求めた。暖房が効いている上に緊張から汗をかき、それが作品の上に落ちている受験者もいて、審査員を悩ませた。

実技試験の可否の基準は 2 級と同じだが、額装については、作業効率も求められることから、制限時間(額装の場合 40 分)以内に作業が終了できない場合、一律に不合格としている。他の作品分野では、制限時間内に作業が終わらなかった場合、一律には不合格とせず、総合的に判断している。

実技試験の不合格者の数は、額装は 88 人中 13 人、陶磁器は 43 人受験して 5 人、掛物は 43 人の受験者中 7 人とどまった。

この結果、所要の試験に全て合格し、3 級の認定試験に合格したのは、受験者 88 人中 68 人で合格率は 77% と、昨年の 70% を上回ることとなった。

## 今回の認定試験の反省

4 月 24 日、委員会を開催し、今回の認定試験の反省を行った。

審議の結果、試験の日程については、1 級は 8 月 3 日に行うことになった。2 級・3 級については、次回も 2 月半ばを目途に実施することになった。2 級定員については、次回も土曜、日曜とも面接免除の有無を問わずに定員 30 人にするようになった。

3 級の筆記試験免除者、2 級の面接免除者には中小規模の会社の職員が多く、

再受験での合格率が低いことの報告があった。ある事業者から、実技合格・筆記不合格の受験者について、実技試験の免除ができないかという提案があり、審議に付されたが、特に3級については陶磁器と掛物のどちらを受験するか分からない制度設計になっていることもあり、実技免除の制度は設けないことになった。

本認定試験の浸透具合に関し、事業者の委員から、「1級・2級保持者が作業に入る」という入札条件が昔は見られたが、現在は余りなく、「企業に合格者がいる」になっていて、問題はなくなっているという報告があった。

合格者数の公表について、各事業者所属の合格者数は公表しているが、県別も公表してはどうかという提案があった。他県に出て作業に当たる場合も少ないことから、特に公表しないことが合意された。

資格の更新制度については、時期尚早であるので、将来の課題であることが確認された。

3級実技講習用のビデオについては、先述のように公開しているが、これを見て練習して受験したという受験者のメールが事務から紹介された。また、3級の講習時に受験者に聞いたら、ビデオを見ていたのは半分くらいだったという報告があった。このビデオは、ようやく固まってきた実技試験のセッティングと異なる部分があるので、作成し直す方向で検討ことになった。